



René Martin

2月21日(月)記者会見より

アーティスト・ディレクター ルネ・マルタン

Profile ◎ フランス・ナント近郊に生まれる。音楽(打楽器演奏、電子音響音楽、音楽史など)と経営管理学を学び、1979年にナント市芸術研究制作センター(CREA)の芸術監督に就任。音楽プロデューサーとしての才能を発揮した「ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ・フェスティヴァル」で多くのピアニストたちから信頼され、88年には巨匠スヴァトスラフ・リヒテルと共に「メレ農場フェスティヴァル」を主催。その後、数多くの音楽祭やコンサートをプロデュース。95年に「ラ・フォル・ジュルネ」をスタートさせる。2004年には900以上のコンサートで芸術監督を務め、05年より東京でのラ・フォル・ジュルネ音楽祭を開催し、総来場者数325万人を記録。日本のクラシック音楽界に大きな衝撃を与えた。

今年はみんなが大好きなベートーヴェン100%

今回のテーマは「ウィーンのベートーヴェン」。アーティスト・ディレクターのルネ・マルタンさんは、「音楽史上もつと素晴らしい天才。革命的なアーティストであり、もうひとつ大切なのはヒューマニストであったこと」とたたえます。「ベートーヴェンは人間が好きで、彼の音楽は友愛の精神にあふれています。だからこそ、どんな人をも感動させる力を持っているのだと思いますね」

**すばらしい音楽を
みんなで分かち合おう**

ベートーヴェンは傑作ぞろいですが、今回の音楽祭のためにプログラムされた曲は普遍的な名作ばかり。コンサートがはじめての方にもわかりやすく、気軽に楽しんでもらえるようにと選曲したマルタンさんの苦心が伝わってきます。

「これまでコンサートに行ったことがない方でもまったく問題ありません。世界一流のアーティストとふれあえるチャンスです。きつと人生で素晴らしい体験になるはずです。そして、みんなで音楽を分かち合いましょう。ベートーヴェンはみなさんのためにこれらの作品を書いたのですから!」

マルタンさんは、このホールから見える琵琶湖がとてもお気に入り。湖の歴史や伝説などに興味津々。琵琶湖が楽器の琵琶の形に似ていることを知り、来年には琵琶のために何かが有名な曲を編曲できないかと思案中とか。「そのためにも自転車で琵琶湖を一周してみようと思っています」と秘かなプランも。びわ湖ホールならではの「ラ・フォル・ジュルネ」が進化していくのも楽しみです。



企画
編集
特別

LA FOLLE JOURNÉE de BIWAKO

ラ・フォル・ジュルネ びわ湖

～「熱狂の日」音楽祭2011～

▶4月29日(金・祝)プレイベント／本公演 ▶4月30日(土)本公演 ●場所／滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

あの“熱狂の日”ふたたび!!夢と感動のクラシック音楽祭

フランスの港町ナントで誕生したクラシック音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ」は、2005年から日本の各地でも開催され、昨年は西日本ではじめて大津市のびわ湖ホールに上陸。ゴールデンウィークに多くの聴衆を集め、エキサイティングな音楽祭となりました。今年はさらにパワーアップして、あの“熱狂の日”が帰ってきます! アーティスト・ディレクターのルネ・マルタン氏に2回目を迎える音楽祭の見どころを語っていただきました。

**2011年の“熱狂の日”は
びわ湖ホールからスタート**

昨年、大津市のびわ湖ホールで初めて開催された「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」は、会場とその周辺にのべ2万3千人以上の来場者を記録し、子どもから大人まで幅広い世代の聴衆を集めてにぎわいました。ホールのアンケートによると、来館者のうち約36%がはじめてびわ湖ホールを訪れた方だという(通常は20%程度)。「世界の優れた音楽家の演奏を誰もが気軽に楽しめるよう、短い演奏時間と低料金で多くの公演を提供する」という画期的なコンセプトが、クラシック初心者にも受け入れられた結果といえるでしょう。

今年の「ラ・フォル・ジュルネ」は、新たに佐賀県鳥栖市が加わり全国5都市で開催されます。その最初を飾るのがびわ湖ホール。開催日はゴールデンウィークの4月29日(金・祝)、30日(土)の2日間。有料の本公演数も昨年の12から17にボリュームアップし、無料イベントを含めた総公演数は35程度とさらに充実。熱狂の日の到来に期待がますます高まります。

ビギナーでも気軽に楽しめる画期的なクラシック音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ」の魅力



1公演約45分! しかも低料金で楽しめる!

びわ湖ホールでは大・中・小の3つのホールで17のプログラムが同時進行。1公演が約45分と比較的短く、しかも世界トップクラスの演奏を2,000円以下の低料金で楽しめます。好きなプログラムを選んで、コンサートをハシゴするのが醍醐味です。



キッズプログラムも充実

今回はキッズプログラムとして、MIHO MUSEUMや県立陶芸の森など地域の文化施設とも協力して、「フレスコ画を描いてみよう!」「音楽をイメージして楽しく使える器をデザインしよう!」など楽しい企画も実施予定。



無料の公演も充実

有料公演の他に、メインロビーと大ホールホワイエ、屋外の湖畔広場にキオスク(特設会場)が設けられ、入場無料の公演も多数開催されます。カフェ「なぎさのテラス」や屋台なども出店。湖畔の会場一帯は音楽であふれた“お祭り”ムード一色になります。
※大ホールホワイエの公演は、有料公演のチケットの提示が必要です。



プレイベント、マスタークラスも見逃しません!

本公演前のプレイベントでは、昨年に引き続き書道パフォーマンスとクラシック音楽のコラボレーションを披露します(有料)。また、「ラ・フォル・ジュルネ」に出演する一流アーティストによる公開マスタークラス(楽器演奏の公開レッスン)も開催(無料・事前申込制)。

※最新の情報は公式サイト(<http://fjb.biwako-hall.or.jp/>)をご覧ください。

「ラ・フォル・ジュルネびわ湖2011」公演プログラム(有料公演)

4月29日(金・祝) プレイベント							
会場	公演番号	時間	タイトル	席種	一般料金(円)		
中ホール	121	12:00 ～ 13:30	苦悩から歓喜へ～書道とピアノ四手が奏でるシンフォニーとのコラボレーション～	全席	500		
4月29日(金・祝) 本公演							
会場	公演番号	時間	出演者	曲目	席種	一般料金(円)	小学生以下(円)
大ホール	111	14:00 ～ 14:45	アンヌ・ケフェレック(ピアノ) ヴュルテンベルク管弦楽団 ルーベン・ガザリアン(指揮)	序曲「コリオラン」	S席	2,000	1,500
				ピアノ協奏曲第4番	A席	1,500	1,000
中ホール	122	15:30 ～ 16:15	アブデル・ラーマン・エル＝バシャ(ピアノ)	ピアノ・ソナタ第8番「悲愴」 ピアノ・ソナタ第15番「田園」	全席	1,500	1,000
	123	17:45 ～ 18:40	ブラジャーク弦楽四重奏団	弦楽四重奏曲第10番「ハーブ」 弦楽四重奏曲第11番「セリオソ」	全席	1,500	1,000
小ホール	131	15:30 ～ 16:30	ジェラルール・プーレ(ヴァイオリン) 川島余里(ピアノ)	ヴァイオリン・ソナタ第7番 ヴァイオリン・ソナタ第9番「クロイツェル」	全席	1,500	1,000
	132	17:45 ～ 18:35	トリオ・ヴァンダラー[ピアノ三重奏]	ピアノ三重奏曲第4番「街の歌」 ピアノ三重奏曲第5番「幽霊」	全席	1,500	1,000
4月30日(土) 本公演							
会場	公演番号	時間	出演者	曲目	席種	一般料金(円)	小学生以下(円)
大ホール	211	11:30 ～ 12:15	アブデル・ラーマン・エル＝バシャ(ピアノ) ヴュルテンベルク管弦楽団 ルーベン・ガザリアン(指揮)	ピアノ協奏曲第5番「皇帝」	S席	2,000	1,500
					A席	1,500	1,000
	212	14:15 ～ 15:00	大阪センチュリー交響楽団 沼尻竜典(指揮)	交響曲第6番「田園」	S席	2,000	1,500
					A席	1,500	1,000
	213	17:00 ～ 17:45	オリヴィエ・シャルリエ(ヴァイオリン) ヴュルテンベルク管弦楽団 ルーベン・ガザリアン(指揮)	ヴァイオリン協奏曲二長調	S席	2,000	1,500
A席					1,500	1,000	
214	20:00 ～ 21:00	仲道郁代(ピアノ) びわ湖ホール声楽アンサンブル/ザ・カレッジオペラハウス合唱団 大阪センチュリー交響楽団/三ツ橋敬子(指揮)	交響曲第5番「運命」 合唱幻想曲op.80	S席	2,000	1,500	
A席	1,500	1,000					
中ホール	221	10:00 ～ 11:00	竹澤恭子(ヴァイオリン) アンヌ・ケフェレック(ピアノ)	ピアノ・ソナタ第14番「月光」 ヴァイオリン・ソナタ第1番/第5番「春」	全席	1,500	1,000
	222	13:00 ～ 13:50	宮崎剛(ピアノ)/本山秀毅(指揮) びわ湖ホール声楽アンサンブル ザ・カレッジオペラハウス合唱団 ほか	歌劇「フィデリオ」(抜粋)/ ワグナー編曲:交響曲第9番 第4楽章(ピアノ伴奏版) ほか	全席	1,500	1,000
	223	15:45 ～ 16:30	児玉桃(ピアノ)	ピアノ・ソナタ第17番「テンペスト」 ピアノ・ソナタ第31番	全席	1,500	1,000
	224	18:30 ～ 19:15	VOCES 8(ヴォーチェス・エイト) [ヴォーカルアンサンブル]	ミサ曲八長調op.86より	全席	1,500	1,000
小ホール	231	10:00 ～ 11:00	アンリ・ドマルケット(チェロ) アダム・ラルーム(ピアノ)	チェロ・ソナタ第2番/第4番/第5番	全席	1,500	1,000
	232	13:00 ～ 13:50	アダム・ラルーム(ピアノ)	ピアノ・ソナタ第21番「ワルトシュタイン」 ピアノ・ソナタ第23番「熱情」	全席	1,500	1,000
	233	15:45 ～ 16:30	トリオ・ヴァンダラー[ピアノ三重奏]	ピアノ三重奏曲第7番「大公」	全席	1,500	1,000
	234	18:30 ～ 19:35	ブラジャーク弦楽四重奏団	弦楽四重奏曲第15番 大フーガ変口長調	全席	1,500	1,000

※3歳以上入場可、有料公演は全席指定です。

チケットの
申し込み方法

◎電話受付

☎0120-0775-16 もしくは
☎077-526-0005
(平日 AM9:00～PM5:00)

◎ネット受付

Web会員「ねっとも」にご登録の方は、
当社ホームページ
http://www.keibun.co.jp から
お申し込みいただけます。

◎ハガキ・FAX受付

本誌32ページの専用ハガキにご希望の公演番号、
開催日時、アーティスト名、席種、チケット枚数などを
ご記入して、郵送またはFAXでお申し込みください。
FAX 077-526-3838

※友の会「3,000円相当の割引」特典はご利用いただけません。ご注意ください。

※本公演の小学生以下(500円引)のチケットご希望の方は席種欄に「小」とお書きください(例:S席の小学生以下の場合「S小」)。
※個別の座席番号の指定には対応しかねますので、何卒ご了承ください。お申し込みいただいた順に、当社が所有する座席からお取りします。
※お申し込みいただいたチケットは、原則すべてお取りいたします。ただし、満席等によりお取りできない場合はご連絡差し上げます。
※無料公演の情報や、各公演の最新情報は公式サイト(http://lfb.biwako-hall.or.jp/)でご確認ください。

テーマは

「ウィーンの
ベートーヴェン」

革命的な名曲が続々と登場!“傑作の森”を探访しよう!!

2011年のゴールデンウィーク、日本の5都市で連続開催される「ラ・フォル・ジュルネ」は、ベートーヴェンからシューベルトを經由し、ブラームス、シュトラウス、マーラーなどに至る、ロマン派の発生から円熟までクラシック音楽の壮大な潮流を描く。そして「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」のテーマは「ウィーンのベートーヴェン」。後世の音楽家に多大な影響を与えた、ロマン派の萌芽ともいべきベートーヴェンの名曲にふれてみよう。

ウィーン
Beethoven à Vienne

音

楽教室のあの厳つい表情の肖像画で知られるベートーヴェン

の素顔は誰にもわからないが、音楽家として致命的な難聴(のちに失聴)という苦悩を、強靱な精神力で乗り越えた逸話はよく知られている。絶望の果ての生きる希望と創造力の才気にあふれたたくましさで、その顔から伝わってくる。

実際、ベートーヴェンは聴覚を失ったもののちに、交響曲第3番「英雄」をはじめ、同第5番「運命」など、名作と呼ばれるさまざまなジャンルを続々と発表している。その中期の作品群を「ベートーヴェンの生涯」で知られる作家ロマ

ン・ロランは「傑作の森」と称した。

ベートーヴェンは18世紀から19世紀への転換期、音楽史では古典派からロマン派へ移行していく、ちょうどその中間点にいた。古典派の様式を再発見しながら、ロマン派の先駆けとなるモダンなスタイルで新風を吹き込み、2つの時代の懸け橋になったといえる。

ルネ・マルタン氏によると、ベートーヴェンの生み出した音楽は、まさに革新的だったという。

たとえば、19世紀にリストやシュトラウスらによって登場した交響詩は、詩的に、また絵画的に管弦楽で自然の情景などを描写するもので、すでにベートーヴェンは交響曲第6番「田園」でそれを表現し

◎ロマンチックな女性の方に

ベートーヴェンが恋人に捧げたというピアノ・ソナタ第14番「月光」、そして竹澤恭子が演奏するヴァイオリン・ソナタ第5番「春」で明るい気分。221

◎ロック大好きな若い男性に

三ツ橋敬子指揮、大阪センチュリー交響楽団が演奏する交響曲第5番「運命」。ロック・アーティストにもアレンジされているベートーヴェンの代表曲。214

◎お子様連れのビギナーの方に

アブデル・ラーマン・エル＝バシャがルーベン・ガザリアン指揮、ヴュルテンベルク管弦楽団と演奏するピアノ協奏曲第5番「皇帝」。お子様も感動間違いなし。211

◎珍しい曲を聴いてみたい方に

トリオ・ヴァンダラーが演奏するピアノ三重奏曲第5番「幽霊」。ゆっくりとしたメランコリックな楽章がとても美しい。映画でもよく使われる名曲です。132

◎びわ湖ホールだけで演奏する一曲

音楽祭の最後に演奏される「合唱幻想曲」が聴けるのはびわ湖ホールだけ!ピアノと合唱とオーケストラの絶妙なハーモニーが期待できるフィナーレです。幸せな気持ちで帰路につけるでしょう。214

※最後の数字は公演番号です。左記のプログラムを参照してください。

ていた。弦楽四重奏曲もその後の多くの作曲家に影響を与え、今日の室内楽のレパートリーの中でも欠かすことのできない重要な作品になっている。

また、フランスのヴァイオリン奏者ロドルフ・クロイツェルに献呈されたヴァイオリン・ソナタ第9番(そのため「クロイツェル」と呼ばれている)は、クロイツェル自身が作品を理解できず、また技術的にも高度なテクニックが求められたため、一度も演奏することはなかったという。

2 年目を迎える「ラ・フォル・ジュルネびわ湖2011」のテーマは、「ウィーンのベートーヴェン」。この中でベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ第1番と第5番「春」を聴かせてくれるのが竹澤恭子さん。パリに拠点を置いて世界で活躍する実力派のヴァイオリニストだ。

「ラ・フォル・ジュルネは作曲家に焦点をあてているところが面白く、朝から晩までいろいろなコンサートが開かれていて、気楽に聴いていただけです。琵琶湖の美しい風景を見て、インターナショナルなアーティストの音楽を聴くと、とても癒やされると思います。奏者としても、素晴らしい環境で演奏すると感化されますね」と竹澤さん。



初登場のびわ湖ホールで 心に響く名曲を奏でる

ヴァイオリニスト

竹澤恭子

実は「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」の少し前、4月17日にびわ湖ホールで開かれる篠崎靖男プロデュース・オーケストラ・シリーズ第1弾で披露する、シベリウスのヴァイオリン協奏曲が滋賀初登場となる。篠崎さんと竹澤さんは以前から親交があり、京都市交響楽団とは初共演した同じ曲を今回奏でることになった。「篠崎さん、京響とのコンビネーションでどんな音楽が生まれるのか、今からとても楽しみです」と笑顔で話す。

「シベリウスは魅力的な作曲家です。このヴァイオリン協奏曲は、



新天地で新たな音色作りに励む竹澤さん。春のびわ湖ホールで、さらに魅力的な音楽を聴かせてくれるだろう。

「のの違いを見
過すことにな
ります。フラン
ス文化を身近
に感じて表現の
幅を広げたい
ですね」

●Kyoko Takezawa

愛知県出身。3歳からヴァイオリンを始め、桐朋女子高校音楽科在学中に第51回日本音楽コンクール第1位、併せてレウカディア賞、黒柳賞に輝く。1985年にジュリアード音楽院に入学し、ドロシー・ディレイ氏、川崎雅夫氏に師事。86年第2回インディアナポリス国際ヴァイオリン・コンクールで優勝を飾り、以来、世界の主要オーケストラや指揮者と共演。使用楽器はストラディヴァリウスソサエティより貸与されたグアルネリデルジェス(1742年製)のヴィニアフスキー。
オフィシャルホームページ
<http://www.kyokotakezawa.com/>

彼が生まれたフィンランドの自然の美しさや気候、シャイな国民性が反映されているように思います。一つひとつの音が時に温かく、時に深みがあって、心の奥に響く。彼の他の作品を弾き、実際にフィンランドで演奏したり、フィンランドの人と接するようになってから表現がつかめてきました」

海外ツアーの多い竹澤さんは、1年半ほど前に20数年暮らしたニューヨークからパリに住まいを移した。二度はヨーロッパで生活した

の思い、率直に素敵だと感じたパリへ引越しました。ここはアーティストを育てる街ですし、人々は人生を楽しむことをよく知っています。今はフランスの作曲家の作品を勉強中。和声や色彩が豊かで、こちらの感覚を磨かないと少しの違いを見

Information!

篠崎靖男プロデュース・オーケストラ・シリーズ第1弾 京都市交響楽団 マーラー「巨人」

4月17日(日)午後2時30分開演 ▶会場/滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール(大)
●KEIBUN友の会料金/S席5,000円 A席4,000円 ※B・C席完売
◎指揮/篠崎靖男 ◎演奏/京都市交響楽団 ◎ヴァイオリン独奏/竹澤恭子
★曲目/ニールセン:歌劇「マスカーデ(仮面舞踏会)」序曲、シベリウス:ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47、マーラー:交響曲第1番 二長調「巨人」

ラ・フォル・ジュルネびわ湖2011 竹澤恭子(ヴァイオリン) アンヌ・ケファレック(ピアノ) 221

4月30日(土)午前10時開演
▶会場/滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール(中)
●全席1,500円(小学生以下500円引)
★曲目/ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第14番「月光」、
ヴァイオリン・ソナタ第1番、ヴァイオリン・ソナタ第5番「春」